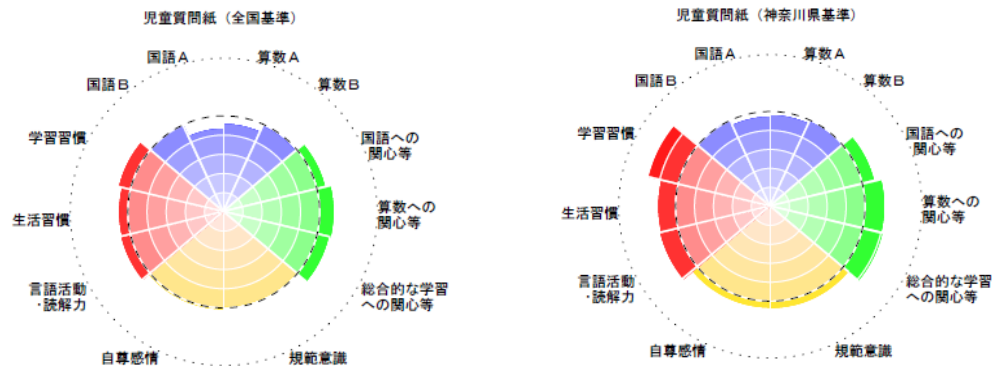


## 平成28年度 全国学力・学習状況調査 分析



国語 A (主として知識) では、正答率 67.6% であった。これは、県に比べて 2.7%、全国に比べて 5.3% 低かった。特に、「話すこと聞くこと」(本校 71.6%・県 79.9%・全国 79.2%) の正答率が低かった。なかでも、「目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う」問題の正答率が県、全国よりも 8% 程低かった。しかし、「目的に応じて図と表とを関係付けて読む」問題は、97% の児童が正答し、県、全国に比べて 4% 高かった。

国語 B (主として活用) は、正答率が 57.2% であり、県 (58.2%) や全国 (57.8%) と差異はなかった。「効果的な読みの工夫」や「自分の考えを明確にしながら読む」読む能力を問う問題の正答率が、県、全国よりも 2% 程高かった。また、「グラフを基に分かったことを的確に書く」問題も 2~3% 高かった。しかし、「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」は 43.3% と県、全国と比べて約 8% 低い。

国語では、A・B 共通して「読む」力は高く、今後も目的や考えを明確にした読みや、表などと関連付けた読みを大切にしていきたい。しかし、目的や場面、情報に沿って対応したり、臨機応変に考えて話したりすることは苦手だと考える。日々の授業で、その時間や単元、展開に合った考えをもち、しっかりと発表したり、友達と意見交流をしたりすることができるような機会をより充実させていくことが必要であると考ええる。

算数 A (主として知識) は、正答率 74.3% であった。県とは 2.3%、全国とは 3.3% 低かった。量と測定領域では 82.8% の正答率があり、県、全国よりも約 6% 高かった。「三角形の底辺と高さの関係」を問う問題では、それぞれ 7.4%、9% 高かった。しかし、数と計算領域では、県よりも 4.6%、全国よりも 6.2% 低かった。「 $2.1 \div 0.7$  を工夫して計算する (同じ数をかけても、商は変わらない。)」 「 $4.65 + 0.3$  (末尾の揃っていない加法)」 「 $18 \div 0.9$  (小数の除法)」 の問題での正解率が特に低く、10%~18% 下回った。

小数や分数を含めた数の基礎的な概念を確実に身に付けるとともに、既習の計算の徹底が大切になってくる。繰り返し問題を解き、四則計算の定着を図っていくことが必要であると考ええる。

算数 B (主として活用) の正答率は、県、全国と比べて 1.2% 程度低いが、正答数でも大きな差異はなかった。数量関係領域では、県や全国よりも正答率が高かった問題 (約 8%)、低かった問題 (約 11%) と差が出た。同じ領域であっても、具体的なイメージがもてる問題の正答率が高かったので、今後も、色々な生活経験や算数的活動を通して、数量関係についての理解を深められる授業展開を充実させていきたい。また、低かった「説明を解釈して、別の場面に適用する」力も、児童にとって難しい力ではあるが、日々の授業で、全領域を通して身につかせていきたい力である。